

GRACHAN

OFFICIAL RULES

本戦

GRACHAN 実行委員会

I. 試合

● 階級：

| | | | |
|-------|-----------|---------|-----------|
| ストロー級 | 52.2kg 以下 | フライ級 | 56.7kg 以下 |
| バンタム級 | 61.2kg 以下 | フェザー級 | 65.8kg 以下 |
| ライト級 | 70.3kg 以下 | ウェルター級 | 77.1kg 以下 |
| ミドル級 | 83.9kg 以下 | ライトヘビー級 | 93kg 以下 |
| ヘビー級 | 無差別 | — | — |

※対戦する双方と主催者の中で協議の上で契約体重を定める場合もある。

● 試合

| | |
|-----------|--|
| タイトルマッチ | 1 ラウンド 5 分の 3 ラウンド制。インターバル 1 分。延長ラウンドなし。 |
| ワンマッチ | 1 ラウンド 5 分の 2 ラウンド制。インターバル 1 分。延長ラウンドなし。 |
| CHALLENGE | 1 ラウンド 5 分の 1 ラウンド制。延長ラウンドなし。 |

● 競技用具

| | | |
|---------------|-------|---------------------|
| マウスピース | 本人用意 | 着用義務 |
| ファールカップ | 本人用意 | 着用義務 |
| オープンフィンガーグローブ | 主催者用意 | 着用義務 |
| バンテージ | 本人用意 | 任意 審判の確認・サイン必要 |
| テーピング | 本人用意 | 任意 審判の確認・サイン必要 |
| サポーター | 本人用意 | 任意 審判の確認必要 |
| シューズ | | 着用不可 |
| レガース | 本人用意 | CHALLENGE 出場選手は着用義務 |
| 膝パット | 本人用意 | CHALLENGE 出場選手は着用義務 |
| 肘パット | 主催者用意 | CHALLENGE 出場選手は着用義務 |

・服装：金属部、プラスチックの剥き出しになったものは不可。ひもは内側に使われているものは認められるが、表に出ているものは不可。道着の着用、膝より長い丈のパンツ、ロングスパッツは不可。コスチュームの一部が尖ったりしているものも不可。

・選手は、顔、髪を含め身体のいかなる部分にも、オイル、ワセリン、グリース、痛み止めやマッサージ用のクリーム、滑り止め等の塗布物を塗布、使用してはならない。顔へのワセリンの塗布や薬品を使った止血は主催側が行い、選手やセコンドなどが行ってはならない。

II. 勝敗

● 以下の状況下で勝敗を決定する。

◇ギブアップ：マットか相手の体を 3 回以上叩くか、口頭でギブアップの意思表示をした場合

◇レフェリーストップ：レフェリーがこれ以上の試合続行は危険であると判断した場合

◇ドクターストップ：リングドクターが負傷した選手の試合続行を不可能と判断した場合

- 1) 負傷の原因が相手の正当な攻撃、または負傷した選手自身にある場合、負傷した選手を敗者とする。
- 2) 負傷の原因が相手の反則による場合、負傷した選手を反則勝ちにする。

3) 正当な攻撃で両者が負傷した場合は、両者ドクターストップとして引き分けとする。

※負傷した選手のドクターチェックは、ニュートラルコーナーでレフェリー立ち会いのもとで行われ、セコンドがこれに介入することはできない。診断の対象ではない選手は、反対側のニュートラルコーナーで待機する。

◇試合放棄：セコンドがタオルをリング内に投入した場合

◇失格：1度目の反則に「注意」、2度目の反則に「警告」、それぞれにイエローカードが提示され、3度目の反則にはレッドカードの提示とともに「失格」とする。また、「注意」「警告」の段階でレッドカードが提示された場合は、失格とならないものの、重度の反則として判定の際、大幅な減点となる。レフェリーは反則の回数に関わらず、悪質な反則行為には即失格とする権限を持つ。

◇装備品破損：マウスピース、ファールカップ、スパッツなどのコスチュームが破損し、試合を続けられない場合は失格となる。

◇判定：全ラウンド終了時点で勝敗が決しない場合は、ジャッジ3名による判定に委ねられる。

・ドロー裁定：判定の結果、両選手ともに2名以上の支持を得られなかった場合、引き分けとする。

・ノーコンテスト（無効試合）と事故

1) 双方に不正行為があった場合、もしくは第三者介入による不正行為が試合中に認められた場合、ノーコンテストとする。

2) 偶発的な事故等により試合続行が不可能となった場合、以下の通りとする。

・試合続行が不可能となった時点の試合時間が試合時間全体の半分を経過していた場合、その時点までの判定を行う。

・試合続行が不可能となった時点の試合時間が試合時間全体の半分未満だった場合は、ノーコンテストとする。

Ⅲ. 判定基準

● 試合が判定となった場合、以下の優先順位で全てを通して総合的に判定する。

1) 相手に与えたダメージ。攻防の主導権、相手をコントロールする時間。

2) ギブアップ勝ちにつながるアドバンテージ、限りなくフィニッシュに近い状態。

3) 手数、攻防の積極性、アグレッシブさ。

4) スタミナの有無。

※反則による減点は、その度合により各ジャッジがそれぞれ考慮し、判定に反映させる。

Ⅳ. レフェリーの指揮

● レフェリーの指示、裁定は絶対的なものであり、選手とセコンドは服従しなければならない。

● ロープ際の攻防で選手が落ちそうになったとき、またはロープが著しく攻防の妨げになっている場合、レフェリーはブレイクを命じ、リング中央で両者スタンド状態から試合を再開する。

● いかなるポジションの攻防であっても、レフェリーが膠着状態であると判断した場合、ブレイクを命じリング中央より両者スタンド状態から試合を再開する。

● 試合進行上、ルールに明記されていない不足の事態に際しても、レフェリーの決定に従わなければならない。

Ⅴ. 反則

● 以下の行為は全て反則とし、減点、失格の対象となる。

1) 噛みつき

2) 目つぶし、及び目をえぐる行為

3) 頭突き

- 4) 肘を垂直に振り下ろす肘打ち
- 5) 金的攻撃
- 6) 肛門、口腔、鼻孔、眼球等の粘膜部に指を引っかけて相手をコントロールする
- 7) 手足の指に対する関節技（3本以上であれば掴むことは可能。）
- 8) 両者がグラウンド状態となった場合、膝、蹴りによる首から上への一切の打撃攻撃は禁止となる。

※グラウンドの定義

足の裏以外の体の部位が、1点以上マットに着いた状態
(膝、片手、片膝、おしり、背中など各1点でグラウンド)

9) スタンド状態の選手は、グラウンド状態の選手に対し、首より上へ一切の足、膝での打撃攻撃を禁止とする。
ただしグラウンドの選手がスタンドの選手の顔面を蹴り上げることは可能。

- 1 0) 消極的姿勢及び有効的でない攻撃を続ける
- 1 1) 頭髪を掴む
- 1 2) 相手をリング外へ投げる、または押し出すこと
- 1 3) ロープを掴む、またはロープに手足を引っかける
- 1 4) リング外へ逃げる
- 1 5) 喉、または後頭部、延髄、脊髄への打撃攻撃
- 1 6) 喉を掴む攻撃
- 1 7) 自身または相手のグローブ、装備品、シューズを掴んで攻防をすること。

上記の反則を犯した選手は、ペナルティとしてイエローカード1枚でファイトマネーの10%、イエローカード2枚でファイトマネーの30%、レッドカードはファイトマネーの100%を罰金としてプロモーターに支払わなければならない。

VI.セコンド

● 選手に付き添うセコンドは2名までとし、試合中セコンドが選手に直接接触した場合、そのセコンドの退場を命ずるか、そのセコンド側の選手に反則としての罰則を与える。そして、次の事項を守らなければならない。

- (1) セコンドは、試合中は自コーナーの椅子に座り離れてはならない。
- (2) セコンドは、インターバル中、競技者に水のみ与えることができるが、試合場を 過度に濡らすなど試合進行を妨げてはならない。
- (3) セコンドは、インターバル中競技者の競技用具の細工や身体への薬品の塗布などの行為を行ってはならない。
- (4) セコンドは、試合中リングやリングエプロン等、試合場にいかなるものも置いてはならない。
- (5) セコンドは、試合中にリング内に入ってはならない。
- (6) セコンドは、相手競技者及びレフェリーへの罵倒、侮辱、暴力行為を行ってはならない。

VII. その他

● 契約体重が設定されている選手は、試合前日に主催者指定の時間に関係者立会いのもと計量を行う。もしここで時間内にパスしなければ再計量を行うが、それでもパスしなかった場合は下記の通り罰則を課せられる。
(最終計量は公式計量時間より3時間以内とする。)

※計量時の体重契約違反に対する罰則は以下の通りである。

・0.5 kg未満の超過→「注意」（イエローカード1枚）を課せられて試合出場 となりファイトマネーの30%をプロモーターに支払わなければならない。

・1 kg未満の超過→「警告」（イエローカード2枚）を課せられて試合出場となりファイトマネーの50%をプロモーターに支払わなければならない。

※ただしこの場合、一本かKO以外では判定負けとなる。

・1 kg以上の超過→「失格」（レッドカード）となり、ファイトマネーの倍額を損害賠償としてプロモーターに支払わなければならない。

● 選手は試合当日、グローブを着用する前に必ず検査員によるグローブチェックとグローブを封印したテープにサインを受けなければならない。また、一度封印された後は、試合終了までグローブを外すことはできない。

● 選手、セコンドがレフェリーの裁定に異義を申し立てる場合、試合終了後1週間以内に文書で提出すること。リング上を含め直接抗議することは禁止する。

● マウスピース、ファウルカップ、スパッツなどのコスチュームが破損し、試合を続行できない場合は、失格となるので、予備を準備しておくことが望ましい。

● セコンド以外の関係者が柵内で応援、指示した場合は出場選手に反則としての罰則を与える。

VIII. 健康面

● ドクターチェックは大会当日、試合前に必ず受けるものとする。

● 本試合より45日以内に、あらゆる試合においてKO、もしくはTKOをされている場合は、本試合に出場できないこととなる。

● 本試合の前のあらゆる試合においてKO、TKOされている場合は、適切な医療従事者による頭部のCTスキャンを行い、証明書を提出しなければならない。

● 適切な医療従事者により、HIV、B型・C型肝炎の検査を受け、証明書を提出しなければならない。（証明書は、1年以内のものであれば可。）

以上

2016.10.20 改定